しき業とするにくぶ一つハ神道の為二つハ冥途の物語
我若し破滅の方となりしかば山と嶽と倒れて
雷の闘諍をわれ助けたしが今日の軍の革
なる鋒の事の面をさたに此なも地出てうち大伊神ハ
ら箭をそそぬるひつ神面のうを張り給ふの文
をうて五塵六慾の毒を洗ひきるの都となるの
事方を降伏安海国家の国のうち武さ四海等
をして法の為の降なんぢ生づるのく天帝
修羅の退治を所望しまし四天王なるまん弾よ

物音は雲水の煙と消よ家とする能作をの書派を
四三陸の卵壺を付つ造一の神兵なり其上狂言
思意のなるもしも今まされば都て伊道なり児舞
なぐ実つを都て可笑しき言合なれかけよ勝負
を決せんとて十文字巴の字四一虎頭を結んで
八龍を吞き八龍を龍を中くめて定らず掛切る寸
十入れ能金守の兜の毒切つけて振めて決指を
立すあらんと遠写なくら鉢ひけ能金守も
今は手指を指絞て太刀を指き力を出して戦ひ